

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2874001411		
法人名	社会福祉法人 三光志福祉会		
事業所名	グループホーム 志深の苑		
所在地	姫路市御国野町深志野1430番地 (電話) 079-253-7817		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年8月4日	評価確定日	平成21年8月28日

【情報提供票より】(平成21年 7月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	S 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(7月11日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 85歳	最低 75歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	姫路医療生活協同組合 共立病院
---------	-----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム志深の苑は、田畑と山々に囲まれ自然豊かな地に広々とした敷地に恵まれた一角にある。平成13年4月に開設されたが、3年前に新築で建て替えられている。ホーム全体は広々とした空間となっており、特に浴室はゆったりと入浴が楽しめるスペースとなっている。利用者の居室にはクローゼット、収納机があって使い勝手に配慮され、トイレ、洗面台も車イス移動が可能な広さがある。法人として、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービス、ショートステイが併設されており、多方面での協力体制がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	職員とともに検討した理念をつくりあげたのが前回評価の直前であったことから、職員間の共有や日々の取り組みが始まったばかりといったところである。理念を職員の目に留まるように数か所に掲げ、理念の意味を会議等で議論し取り組んでいる。職員研修についても体制作りが検討され取り組みが始まっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価項目を職員全員が記入し、管理者がまとめた。第三者評価を機に資質の向上につながる前向きな意欲が管理者、スタッフから感じられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	前年度は1年間に2回程度の開催であった。今年度から3ヶ月に1回の定例開催に取り組んでいる。メンバーは家族代表、民生委員、法人施設長、管理者が参加し、利用者の状況やホーム行事等の取り組みが報告されている。今後は地域包括支援センター、自治会長への参加要請を積極的にいき、メンバーの間口を広げる取り組みが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	毎月、法人の広報誌「しふかえんさん」が発行され家族に届けられている。職員と家族との信頼関係も深くなっており、より具体的な意見交換が行われている。運営推進会議にも家族の参加があり、意見交流の場となっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	地域の小学校の運動会、音楽会へ招待を受け、参加している。また、中学校のトライやるウィークの受け入れも行き、活気あるひと時となっている。法人全体の年行事として地域の方に参加してもらった納涼祭が盛大に行われてきた。今年は秋祭りを予定しており、地域の皆さんに喜んでいただく多彩な取り組みを準備している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の思い、大切にしたいことを、職員の総意で具体的な言葉で表現されており、胸に落ちる明確な理念がつくりあげられている。		平成18年度の改正介護保険法により「家庭的な環境の下で」という基本方針に地域との関係性が重視されるようになったことを受け、地域密着型サービスの役割を目指した理念の内容に高めることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス毎に理念の内容に立ち返り、ケアを振り返るようにしている。理念をケアの基本として位置づけようとする姿勢がある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年、法人行事として地域住民に呼びかける納涼際は盛況である。ホーム独自としてはトライやるウィークや小学校から音楽会や運動会のお誘いがあり参加している。自治会の行事にも積極的に参加しているが、立地条件もあり、課題も多いと認識している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の取り組みは職員全員が取り組んだ。項目について議論し深めることはできなかったが、多くの気づきを得た。今回の外部評価を受け、職員で話し合い、具体的に取り組む決意が述べられた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年までは、年に1～2回の開催であったが、今年度からは3ヶ月に1回の開催に定例化している。メンバーは家族、民生委員、法人代表、管理者からなっており、事業所の状況報告、取り組みの内容等について報告している。民生委員から介護保険制度について講師の依頼があり管理者が出席した。</p>		<p>運営推進会議は報告や情報交換に限らず、参加メンバーから率直な意見をもらい、サービス向上に具体的に活かしていくことが大切である。自治会長、地域包括支援センターなど、幅の広い立場からも参加を依頼し、メンバーの拡大についての働きかけを期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市に対しては、現場の状況を詳細に把握してほしいと願っている。資料づくりが増え負担感があり、かなりのエネルギーが費消されている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族との面会時には、日頃の生活状況の報告を中心に、金銭管理等の報告については、1～2ヶ月に1回、文書にて行っている。また、緊急時は電話による報告も行っている。法人が毎月1回発行する「しふかえんさん」新聞では、豊富な写真と手書きのコメントの紹介で暮らしぶりが手にとるように分かる。ホーム独自にも各利用者毎にアルバムを作っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に複数の家族が参加して意見等を出してもらっている。面会時には家族が気兼ねなく話せる関係づくりも進んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の入れ替わりによって利用者が不穏になったり、家族も不安があるという声が出された経緯があって、法人内部の人事異動は少なくなっている。職員の定着もよくなっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人等の実施する研修会には積極的に参加している。ホーム独自としては、昨年の評価の改善計画として月2回の研修会の実施を目標にしている。その体制整備として、パート職員1名の採用が決定している。</p>		<p>昨年の評価を受けての改善の一つとしてホーム独自の研修会の取り組みについて、パート職員1名の増員によって体制整備を図るという第一歩が具体化されている。働きながらの学びは実践との両輪によって効率的であり、継続した取り組みが求められる。パート職員も含め日常的に学ぶことを推進してほしい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>姫路市グループホーム連絡会に参加している。情報交換や日頃の悩みについて話し合っで連携に努めている。年間4回の研修会も計画されており、積極的に参加している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居するまで、本人や家族に何度か見学にきてもらっている。また、ショートステイやデイサービス、ケアハウスを利用していた利用者も多く、週1回実施している音楽療法で顔馴染みがあり、スムーズな利用にプラスになっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は料理、裁縫など生活の知恵袋のような技をもっており、凛とした自分を持っているところなど素敵だと思う場面が多々ある。人生経験の長い利用者からはいつも考え方、思いに教えられている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の結びつきを大切に、声をかけ把握するように努めている。生活歴から得意分野を發揮してもらう方法も検討中で、生活を支えるアセスメントの把握に取り組んでいる。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人との日頃のかかわりの中で思いを把握するとともに、家族からの意見、希望も含め個別のアセスメントに基づき作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>随時のミーティングで「サービス担当者会議の要点」表で話し合う機会を作り、その時点での気づきや意見を最大限反映させながら見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携、24時間健康管理体制は協力連携医療機関の看護師と連携が取れている。9名の利用者の状態をよく把握してくれている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医には職員がかかりつけ医まで送り、待機している家族にバトンタッチするようにしている。受診後は家族がホームへ送るといふ家族とのルールが作られている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合は家族、協力医療機関と情報交換をしながら対応している。今後、事業所でのターミナル受け入れも視野に入れ対応方針の共有化について問題意識をもっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ややもすると職員間の会話から利用者の尊厳や価値・権利に踏み込むような内容が聞こえてくる。日常的な確認と改善に向けた取り組みとして具体的な内容の研修を準備中である。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な生活習慣として午前中は掃除を皆で分担して行い、散歩、ラジオ体操と一定の流れはもっているが、おしゃべりを楽しむことや趣味等本人の体調やペースを大切にしながら日々、工夫している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の準備は、利用者が頭にバンダナをして手際よく職員と一緒に調理が進められていた。キッチンも使い勝手がよく、職員と利用者が一緒に食事を楽しむ環境がある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	銭湯を思わせるような贅沢な広さと、天井まである窓からは明るい光が入り、温泉気分になることができるような浴室である。特殊浴槽も設置されている。週3回の入浴日以外はシャワー浴も随時行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、野菜の手入れ、草引き、針仕事、パッチワーク等、利用者が昔とったきねづかはすばらしいものがあり、知恵と力を発揮してもらっている。車イスの利用者には、掃除の時、ハンディモップを持って埃をはらってもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩に加え、週に1回は買い物、ファミリーレストランでの食事などに出かけている。家族からの希望で外出先を玄関に掲示しており、家族が面会時の話題作りにも生かされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっているが内側からは開かない。時間帯を決め開放する試みも行っているが、やはりリスク回避を優先せざるを得ないジレンマを感じている。		管理者は鍵をかけることの弊害について一定の理解をしており、利用者が外に出ようとする時、職員が付き添ったりしている。日中は自由に入出入りするための工夫を検討中であるが早急に具体化することが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>煙・熱の探知機、スプリンクラーの設置はある。消防訓練や避難訓練は以前実施していたが、最近は行っていない。山口県防府市の特別養護老人ホームの被害を目の当たりにして避難訓練の必要性について問題意識は持っている。</p>		<p>災害はいつ起こるかわからないということ踏まえ、いざという時に備えた避難訓練、マニュアル等の整備は重要課題である。さらに地域住民や法人同士での協力体制について話し合いを行い、具体的な取り組みを期待する。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスは栄養士が献立をたて、摂取量は毎食後チェックしている。水分確保についてはいつでも飲めるようにセットしており、定期的に勤めている。夜間は各居室に配茶している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は観葉植物などを置いて明るい雰囲気があり入りやすい。リビングは天井も高く開放感があって、ソファも数か所に置かれ気楽に過ごせる配慮がある。季節ごとに利用者とともに作った飾り付けが居心地の良い空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は洗面所、トイレつきとなっており、プライバシーにも配慮されている。お嫁入り道具の三面鏡や、写真、タンスなど馴染みの物が持ち込まれている。</p>		

 は、重点項目。